

新勢力の台頭に 期待がかかる中間年

五輪の中間年には、世界大会が行われな
い。その代わり、環太平洋諸国が集まり行わ
れる国際大会が、オーストラリアのゴールドコ
ーストで開かれるパンパシフィック大会（8月21
～25日）だ。歴史は浅く、1984年から始ま
って今年で12回目。参加国も少なく、予選
は1つの国・地域につき何名でも出場できる
ので（ただし決勝は国、地域から2名）、これ
を逆にとり、過去には秋に行われるアジア大
会の選考を兼ねたこともある。この大会に出場
できないヨーロッパ諸国の選手たちはという
と、同時期にヨーロッパ選手権（今年は8月13
～24日にドイツ・ベルリン）が開催されてお
り、そちらに出場。西と東で分かれた世界大会の
ような構図となっている。

参加国は少ないといっても、アメリカやオース
トラリア、ブラジルに南アフリカといった強豪国
に加え、アジアのライバルである中国、韓国も
揃っており、全く気の抜けない戦いになる。パ
ルセロナ世界水泳選手権では、優勝した種目

のうち、パンパシフィック大会の出場国によるも
のが男子15、女子12種目にもおぼり、事
実上の世界一決定戦と言える魅力的なレース
も数多く行われた。

さらに、公益財団法人日本水泳連盟が最重
要大会と位置づけるアジア版のオリンピック、
第17回アジア大会（9月18日～10月4日）
が韓国の仁川で行われる。以前は日本が無類
の強さを誇り、アジアの盟主となっていた時代
があったが、今では中国に押され気味。特に
1990年の北京大会、1994年の広島大会で
は女子の全種目を制覇するほどだった（その後
ドーピング問題に発展）。日本も力をつけては
いるが、ロンドン五輪、バルセロナ世界水泳選
手権と中国選手に圧倒されてしまっている種目
は多い。女子背泳ぎではバルセロナ世界水泳
選手権の50mでワンツーフイニッシュを飾った
趙菁、傅園慧に加え、ロンドン五輪2冠の個
人メドレーの葉詩文、バタフライで昨年見事な
復活を遂げた劉子歌など、まだまだ日本人選
手は遠く及ばない。世界につなげるためにも、
まずはアジアで「センターポールに日の丸を」
掲げることが、日本代表チームの最大の目標

になるだろう。

若き精鋭たちは 世界の強豪相手にどう戦う？

現状を見ればパンパシフィック大会、アジア
大会ともに厳しい戦いを強いられるだろう。だ
が、日本競泳陣も未知の力を秘めた選手たち
が育ってきている。

その筆頭は、昨シーズンに日本ランキング1
位となる飛躍を遂げた平泳ぎの小関也朱篤（ミ
キハウス）だ。50m、100mではキャメロン・
ファンデルバーク（南アフリカ）や、クリスチャン
スプレングァー（オーストラリア）との対決がパ
ンパシフィック大会で待ち受けている。特にスプ
レングァーとの100m対決は見物だ。小関もス
プレングァーも前半から積極的に飛ばすタイプの
選手。2月に行われた日本選手権（25m）で
の100m平泳ぎでは、従来の50mの日本
記録（翌日の50mのレースで更新）を上回
るタイムで折り返すほどの積極性を見せた小
関。スタートから一気に2人が抜け出す、エキ
サイティングな展開も予想される。

400m個人メドレー金メダリストの瀬戸大也

戦 い の の 展 望

第12回パンパシフィック大会 第17回アジア大会

昨シーズン、萩野・瀬戸というゴールデンエイジの活躍により、
日本代表チームはリオデジャネイロ五輪に向けて好スタートを切ったが、まだ序章に過ぎない。
中間年だからこそチャレンジできることがある。日本人選手たち、そして海外の強豪選手たちは、
この年をどのように位置づけてリオデジャネイロ五輪までのステップアップにつなげるのだろうか。



パンパシフィック大会で小関との対決が期待されるスプレングァー



ロンドン五輪で4冠、バルセロナ世界選手権では5冠を達成したフランクリン。女王を追い超える見られるか？



バルセロナ世界選手権では3つの金メダルを獲得した「王者」ロクテ。瀬戸、萩野はどこまで追われるか。



1500m自由形で世界記録、200m自由形また400m自由形でもアジア記録を持つ孫楊

（JSS毛呂山）と萩野公介（東洋大）の前に立ちたはかるのは、王者ライアン・ロクテ（アメリカ）。ロクテはリオデジャネイロ五輪に向けて練習拠点を移したばかり。今後はスプリント種目への挑戦も掲げており、400mへの出場は不確定だが、確実に200m個人メドレーではブラジルのティアゴ・ベレイラとともに、ロクテ包囲網を敷くことになるだろう。

パンパシフィック大会の見どころといえば、メリッサ・フランクリン（アメリカ）だ。バルセロナ世界水泳選手権ではリレーを含めると100m背泳ぎ、200m自由形と背泳ぎの3個を合わせて計6個の金メダルを獲得。まさに世界の女王にふさわしい活躍を見せている。そのフランクリンも昨年5月に高校を卒業し、練習環境が変わる。その変化がどのような成長を促すのか、すべてのレースに注目したい。

フランクリンに唯一対抗できる実力を持っていた寺川綾の引退もあり、女子競泳陣の苦戦は必至。鈴木聡美（ミキハウス）、星奈津美（ミズノ）の早い復調が望まれる。鈴木は初めて国際大会に出場したのが、4年前のアメリカ・アーバインで行われたパンパシフィック大会。たったの100分の1秒でつかめなかったメダルの悔しさを晴らしておきたいところ。平泳ぎは渡部香生子（JSS立石）も忘れてはいけない。

昨シーズン前半は悩んでいたが、9月の東京国体で自己ベストを更新したことをきっかけに、一気に調子を上げてきた。今では鈴木よりも安定感のある泳ぎを見せ、3月のNSWオープン選手権では200m個人メドレーで2分10秒65の日本記録を更新するほどの実力をつけた。渡部には平泳ぎだけでなく、個人メドレー

中国の強さは揺るがない アジア大会 その牙城を少しでも崩せるか

での活躍も期待される。

最大のライバル、中国との対決となるであろうアジア大会。その中国は、昨年9月に行われた4年に一度の中国大運動会で好記録が続出。男子100m自由形では、藤井拓郎（コナミ）が持っていたアジア記録を48秒27で寧澤濤（中国）が塗り替え、星のライバルになる劉子歌（中国）は2位だったものの、200mバタフライでなんと前半を59秒台で折り返すスピードを見せつけた。萩野や瀬戸と同世代の汪順（中国）は、得意種目も同じ個人メドレーで、4分9秒10の世界ランキング3位の好記録をマーク。アジア大会では同世代による三つ巴のレースに期待だ。

そして、忘れてはいけない孫楊（中国）は、

200m自由形で1分44秒47を叩き出し、韓国のパク・テファンが持つアジア記録を更新。その後の11月に無免許運転で交通事故後の謹慎があり、今では練習を再開したものの、盤石の体制とまではいかない様子。だが、実力は抜き出ている孫。昨年、見られなかったパクと孫のアジアが誇る自由形中・長距離の2人の戦いは見逃せない。

五輪中間年とはいえ、すでに世界はリオデジャネイロ五輪に向けて動き出している。この流れに日本も乗り込みたいところだが、ここ数年は国際大会で自己ベストを更新できない選手が多い。パンパシフィック大会、そしてアジア大会で強豪たちと渡り合うためには、何よりも自分が持っている実力を最大限発揮することが重要だ。そのためには、経験豊富な松田丈志（セガサミー）や立石諒（ミキハウス）を始めとするベテラン勢の復活はもちろんのこと、小関や今井月（本巢SS）、藪美涼（セントラル浦安）といった新勢力は、国際大会の雰囲気にも飲まれず、積極的なレースを心がけてもらいたい。「まだあと2年あると考えるか、もう2年しかないと考えるか」。挑戦するタイミングは、中間年の今しかない。